

第1号議案—1

品質保証研究会 平成27年度活動報告

1. 活動状況

(1) 平成27年度の活動は、第25回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	通常総会	第25回通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	講演会	1回
			見学会	1回
3	QASGニュースの発行	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	第85号～87号	3回
4	定例研究会活動	グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ	5回
			第2グループ	6回

(2) 平成27年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

2. 活動要約

平成27年度の活動要約を表2に示す。

表1 品質保証研究会 平成27年度活動実績

○・▽：計画 ●・▼：実績

項目		2015年(平成27年)						2016年(平成28年)							
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
全体活動	総会	第25回 6/10 ▼												第26回 6/6 ▼	
	講演会	計画							○-----	-----▽	第43回 ▽				
		実績										3/7 ▼			
	見学会	計画				○----- (案内発送)	-----▽ 第41回								
		実績				● 9/28	▼ 10/28								
	QA SG ニュース	計画		○----- (依頼)	○----- (締切)	○----- '85号 ▽ (発行)		○----- (依頼)	○----- (締切)	○----- '86号 ▽ (発行)		○----- (依頼)	○----- (締切)	○----- '87号 ▽ (発行)	
実績						▼ 10/21			▼ 1/28				▼ 5/27		
第1 グループ	計画		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)			
	実績		▼ 7/16		▼ 9/14 (講演会)			▼ 12/16			▼ 3/10		▼ 5/12		
第2 グループ	計画		▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			▽ (定例研究会)			
	実績		▼ 7/10		▼ 9/14 (講演会)	▼ 10/7		▼ 12/10			▼ 3/2		▼ 5/11		
H. Pメン テナンス	計画	-----												----->	
	実績														
幹事会	計画			第163回 ▽		第164回 ▽			第165回 ▽		第166回 ▽	第167回 ▽			
	実績			▼ 8/25		▼ 10/14			▼ 1/6		▼ 3/16	▼ 4/18			

表2 平成27年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目	日時・場所等	参加人員	内容	
1	第25回 通常総会	平成27年6月10日(水) 学士会館 2階202号室	46名 (他、委任 状41名)	(1)議案審議 ①平成26年度活動報告・決算案の承認 ②平成27年度活動計画・予算案の承認 (2)平成27年度役員紹介 (3)定例研究会活動状況報告、特別講演	
2	講演会	特別講演	平成27年6月10日(水) 学士会館 2階202号室	69名	第1部：暮らしのなかの放射線～リスクについて考える～/第2部：東日本大震災時の危機対応に学ぶ 東嶋和子氏[科学ジャーナリスト]
		第43回 講演会	平成28年3月7日(月) TKP東京駅八重洲カンファ レンスセンター(4F)4R室	43名	STAMP/STPA 及び STAMP/CAST について～システム理論に基づく事故モデルを用いたハザード分析および事故解析～野本秀樹氏、星野伸行氏 [有人宇宙システム株式会社 安全開発保証部]
3	見学会	第41回 見学会	平成27年10月28日(水) 清水建設株式会社「東京木工 場」	17名	施設/設備見学(コラボレーションスタジオ、工場)及び技術への拘りに係る意見交換など
4	定例研究会	第1 グループ (リーダー： 奥平光城 会員)			<p>【研究テーマ】 『研究テーマ：品質システムの研究「原子力 QMS に対する ISO9001 改訂の影響評価」』</p> <p>-----</p> <p>【研究の内容】</p> <p>1) ISO9001:2015 に対する評価 ISO9001:2015 から導入されたリスクに基づく品質マネジメントシステムに関して、原子力業界におけるあるべき姿を中心に議論した。リスクの定義によっては、マネジメントシステムの影響範囲は、従来の品質の枠組を超え、会社の経営そのものにもなるが、一方、品証部門が実行力のある運用ができるか等の課題もある。JEAC4111 への反映すべき点等は、来年度も引き続き検討する。</p> <p>2) QMS 枠組みマトリクスの継続審議 昨年度から検討を開始した規制局、事業者、製造者の立場を考慮した QMS 枠組みマトリクスに対して、リスクの視点から検討を深めた。規制局、事業者、製造者が一体となった、いわゆる大きな QMS の運用には、それぞれの役割でのリーダーシップと円滑なコミュニケーションが重要であるとの見解に至った。</p> <p>3) レジリエンスエンジニアリングの研究 東北大学名誉教授北村氏の講演を通じ、レジリエンスエンジニアリングは、実際の被害とそれがなされなかった場合に想定される被害との差分（被害を防いだ部分・成功）に目を向けること、しなやかな強さを求めすぎるあまりに一方で生じる脆弱さ（バランスが重要）に着目すべき点があること、等の気づきを得た。</p> <p>定例研究会 平成 27 年 7 月 16 日 平成 27 年 9 月 14 日 平成 27 年 12 月 16 日 平成 28 年 3 月 10 日 平成 28 年 5 月 12 日</p>

表2 平成27年度 品質保証研究会 活動要約(2/2)

番号	項目	内容	
4	<p>定例研究会</p> <p>第2グループ (リーダー：氏田博士 会員)</p>	<p>【研究テーマ】 エラーマネジメントに関する調査研究</p> <p>【研究の内容】</p> <p>(1) 東京電力福島第一原子力発電所事故の論点整理と提言 H26年度活動報告に引き続き、「安全を達成するために必要な個人及び組織の在り方」を、以下の調査及び意見交換を通して検討した。</p> <p>①「ヒューマンファクターの観点からの福島第一事故の調査報告(HMS部会)」</p> <p>②福島第一原子力発電所事故をふまえた組織レジリエンスの向上</p> <p>③安全思想の再構築 深層防護(DID)と確率的安全評価(PRA)の関係を整理し、リスクマネジメントの観点から、リスクベネフィット解析の重要性を指摘した。</p> <p>(2) レジリエンスエンジニアリングの適用</p> <p>①Resilience Analysis Grid(RAG)のシート見直しと組織への適用性の調査・検討を実施した。</p> <p>②良好事例分析手法の確立と調査・検討 良好事例分析として、統一的な教訓シートに基づき、良好事例(3事例)と過去に分析した組織事故分析から教訓の抽出方法について検討した。</p>	<p>定例研究会</p> <p>平成27年7月10日 平成27年9月14日 平成27年10月7日 平成27年12月10日 平成28年3月2日 平成28年5月11日</p>
5	<p>QASG ニュースの発行</p>	<p>(1) 第85号 平成27年10月 (2) 第86号 平成28年1月 (3) 第87号 平成28年5月</p>	<p>① 第25回通常総会報告 ② 第1・2グループ活動計画および活動報告 ③平成27年度役員紹介 ④第41回見学会記 ⑤第43回講演会報告、他</p>
6	<p>幹事会</p>	<p>上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第163回～第167回の計5回開催)</p>	